

【参考】

グループ活動について

環境教育などの参加体験型学習では、一人ひとりの思いが大切にされ、一人ひとりが対等に参加でき、みんなが参加してよかったと思えるように、参加者をグループに分けることが多くあります。

参加者の思いを大切にするためには、参加者みんなが自分の思いを披露することができる環境作りが大切です。学校などでクラス全体の中で発言するのはなかなか勇気が必要です。それは子どもだけではなく、大人にも難しいことなのです。

参加者を少人数のグループに分けることで、参加者はずいぶんと話しやすくなります。グループの人数としては5～7人程度がよいといわれています。一人ひとりが意見を述べることができるためには少ない方がいいのですが、逆にそこで出てくる意見が多様であるためにはある程度の人数が不可欠です。グループ分けは参加者の参加意欲を高めてくれます。

また、グループ活動でも、特定の人ばかり話したり決めたりしているようでは、一人ひとりが対等に参加していることになりません。主催者は、グループ活動の際にはときどきそれぞれのグループを見て回り、みんなで話すように促してください。

グループ活動は、プログラムの中で意見を出したり話し合ったりする際にも使われますが、プログラムの初めにお互いに自己紹介する際や、最後に活動を振り返ったりする際にも効果的です。全体での話し合いの中で、意見などが出にくい雰囲気になったときに、思い切ってグループに分けてみるのもよいでしょう。

グループ分けをするときには、いくつかの注意が必要です。参加者は対等な存在として扱われるべきですから、グループ分けはなるべく無作為的な方がよい場合が多いのですが、すでに十分に人間関係のある参加者の集まりの場合は、ある程度意図的にグループ分けを行った方が、活動がスムーズになる場合もあります。また、参加者のうち何人かが仲間である場合は、なるべく別グループに入るようにした方がよい雰囲気になります。

無作為に分ける場合は、誕生日順に並んで分けたり、参加者名簿の順番をもとに分けたりします。

グループ活動をスムーズにするためには、グループをそれぞれ離して「島」を作ります。そのためには、移動可能な長机や椅子が使える部屋がよいでしょう。長机2脚と椅子6脚程度で一つの島を作るのが標準的です。また、会場となる部屋も、ゆったりと余裕のある広さがあると、島を作りやすく、参加者などの移動もスムーズになります。